2023年度　　吉田学園医療歯科専門学校　　救急救命学科

授業科目 （科目ID）	救急医療概論 22e115	担当教員 （実務経験）	田中　則之 有 ☑　無 ☐　救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う　別紙1参照		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	救急救命士を取り巻く体勢・制度を理解し、救急救命士としての役割と責任を自覚する。法医学では、救急医学と法医学の関わりを理解し、救命士にとって必要な基礎を習得する。				
到達目標	①救急医療体制やメディカルコントロール体制及び災害医療体制について説明できる。 ②救急活動のながれ、救急活動において必要な法令、コミュニケーション、安全管理と事故対応、感染対策、ストレス対策について説明できる。 ③死の概念について説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第10版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験配分 ・病院前医療　80% ・法医学　20% 定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	豊富な救急医療経験を元に救急医療のいろはを学んでいく。これから救急救命士を目指す過程で重要な科目なので、途中で効果測定を行い、目標到達度の評価を行う。①遅刻・中途退室の厳禁、②私語・携帯オフ、③居眠り、④提出物の期限厳守、⑤その他授業の進行に差し障りのある行為に対する諸注意。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	救急救命士の現状と未来（1）（菩提寺・阿部・荒谷）	救急救命士発展の歴史
2	救急救命士の現状と未来（2）（菩提寺・阿部・荒谷）	救急救命士の活躍
3	職業選択の自由について （菩提寺・阿部・荒谷）	職業としての救急救命士について
4	人間性と自立について （菩提寺・阿部・荒谷）	救急救命士に必要な人間性とは何か
5	救急医療人としての活躍 （菩提寺・阿部・荒谷）	世界の救急医療体制と日本の現状
6	現場で活躍する救急救命士 （菩提寺・阿部・荒谷）	消防機関で活躍する救急救命士
7	成長発達（1）（三上）	発達の区分
8	成長発達（2）（三上）	各発達の理解（グループワーク）
9	成長発達（3）（三上）	各発達の理解（グループワーク）
10	成長発達（4）（三上）	発表
11	救急医療体制 （田中）	病院前医療、救急医療システム、救急医療体制の一元化
12	病院前救護体制 （田中）	救命の連鎖、市民による一次救命処置
13	病院前救護体制 （田中）	メディカルコントロール
14	消防機関における救急活動の流れ （田中）	119番受信と通信体制、救急活動の記録
15	救急救命士と傷病者の関係 （田中）	接遇とコミュニケーション

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	救急救命士に関連する法令 （田中）	救急救命士法、医師法、保健師助産師看護師法、消防法、医療法
	17	救急救命士の養成と生涯教育 （田中）	救急救命士の養成課程と生涯教育、病院実習
	18	安全管理と事故対応 （田中）	安全管理、傷病者の事故、救急救命士等の事故
	19	感染対策 （田中）	感染予防策、感染事故と対応
	20	ストレスに対するマネージメント （田中）	救急活動でのストレス
	21	法医学（1） （安積）	法医学の分野（死体の検案および解剖、自然死と異常死）、死の概念
	22	法医学（2） （安積）	死体現象（早期死体現象。後期死体現象、特殊な死体現象）
	23	法医学（3） （安積）	窒息、損傷、凍死について

2023年度　　吉田学園医療歯科専門学校　　救急救命学科　　別紙1

授業科目 （科目ID）	救急医療概論 22e115	担当教員 （実務経験）	安積　順一 有 ☑ 無 ☐	医科大学病院にて病理解剖に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 （実務経験）	三上　剛人 有 ☑ 無 ☐	看護師として救命救急センターにて救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
授業形態	講義	担当教員 （実務経験）	菩提寺　浩 有 ☑ 無 ☐	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員 （実務経験）	阿部　鯛一 有 ☑ 無 ☐	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員 （実務経験）	荒谷　和興 有 ☑ 無 ☐	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	

2023年度　　吉田学園医療歯科専門学校　　救急救命学科

授業科目 （科目ID）	救命処置 22e116	担当教員 （実務経験）	荒谷　和興 有 ☑　無 ☐　救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	現場活動に必要な知識を習得し、的確な判断、処置、観察を実施し一連の活動を理解し実際の対応を習得する。				
到達目標	救急救命士が現場で行う、観察及び処置、緊急度・重症度判断に関する基本事項を説明ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第10版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験　80% 確認テスト提出状況　20% 定期試験・提出物等を基に総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	10%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	講義形式とする。必要に応じて器材等を活用する。基礎解剖生理の知識を基に傷病者観察の基本を学ぶ。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	観察総論①	観察の目的と意義、生命徴候の項目
2	観察総論②	救急現場活動で必要な観察と問診の方法
3	全身状態の観察①	外見の観察、気道観察、呼吸の性状
4	全身状態の観察②	循環に関する観察
5	全身状態の観察③	意識状態に関する観察
6	局所の観察①	皮膚、頭部、顔面、頸部の観察
7	局所の観察②	胸、腹部の観察
8	局所の観察③	指趾、爪、皮膚の異常と浮腫
9	神経所見の観察①	運動麻痺の種類と特徴
10	神経所見の観察②	運動麻痺の観察方法
11	緊急度・重症度判断	緊急度と重症度の概念と基準
12	中間まとめ	全身、局所観察中間まとめ
13	救急救命士が行う処置①	気道確保と異物除去方法
14	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保
15	救急救命士が行う処置③	酸素投与方法

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	救急救命士が行う処置④	人工呼吸の方法
	17	救急救命士が行う処置⑤	胸骨圧迫
	18	救急救命士が行う処置⑥	電気ショック
	19	救急救命士が行う処置⑦	静脈路確保と輸液
	20	救急救命士が行う処置⑧	体位管理と創傷処置
	21	救急救命士が行う処置⑨	救急蘇生法
	22	在宅医療傷病者への対応	在宅酸素療法、血液透析
	23	救命処置のまとめ	救急救命士が実施する観察と処置まとめ

2023年度　　吉田学園医療歯科専門学校　　救急救命学科

授業科目 （科目ID）	心肺停止Ⅰ 22e117	担当教員 （実務経験）	三上　剛人 有 ☑　無 ☐　救命救急センターにおいて看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義・演習	授業回数（1回90分）	8	時間数	16時間
授業目的	心肺停止状態の患者の処置をするにあたり、心肺停止の病態に関する基礎知識を学ぶ。				
到達目標	①医療者向けBLSの手順を覚える ②心肺蘇生に関する略語を言える				
テキスト・ 参考図書等	・救急蘇生法の指針2020（医療従事者用） ・改訂　第10版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験・レポート等を基に総合的に評価する。
	レポート	20%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	心肺停止を医学的根拠を基に解説。実技は基礎演習の科目で行うので、ここでは根拠をしっかり学ぶ。解剖・生理学と結びつけて学習していく。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	原因と病態	心停止、呼吸停止後の病態
2	心停止の易学	時間的要因、蘇生の可能性
3	心停止の心電図	心静止・VF・PEA、重症不整脈
4	心停止の判断	呼吸観察、循環観察、DNAR
5	蘇生	根拠と方法
6	BLS	BLSの手順解説
7	BLS	BLS実技指導
8	BLS	BLS実技指導
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

2023年度　　吉田学園医療歯科専門学校　　救急救命学科

授業科目 （科目ID）	救急病態生理学Ⅰ 22e118	担当教員 （実務経験）	田中　則之 有 ☑　無 □　救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	疾患にかかると、さまざまな自覚症状、第三者によって認められる徴候がみられる。これらは疾患の根底に存在する、生体の機能が病的に変化した状態を反映する。ここでは、患者さんから現れる症状と徴候を学んでいく。よく遭遇する重要な症状・徴候の理解と対処の方法を習得する。				
到達目標	症状、所見から病態鑑別を行い、必要な救急処置ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第10版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90%	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	救急疾患に関係の深い病態を中心に行う講義であり、他の病態にも関連性の高い内容となっている。今後の授業の理解度を上げるためにも、内容を理解するため、毎回しっかり予習・復習をすること。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	呼吸不全①	原因と病態生理、症候
2	呼吸不全②	原因と病態生理、症候
3	呼吸不全③	原因と病態生理、症候
4	心不全①	原因と病態生理、症候
5	心不全②	原因と病態生理、症候
6	心不全③	原因と病態生理、症候
7	ショック①	原因と病態生理、症候
8	ショック②	原因と病態生理、症候
9	ショック③	原因と病態生理、症候
10	重症脳障害①	原因と病態生理、症候
11	重症脳障害②	原因と病態生理、症候
12	重症脳障害③	原因と病態生理、症候
13	心肺停止①	原因と病態生理、症候
14	心肺停止②	原因と病態生理、症候
15	心肺停止③	原因と病態生理、症候

2023年度　　吉田学園医療歯科専門学校　　救急救命学科

授業科目 （科目ID）	外傷総論 22e119	担当教員 （実務経験）	阿部　鯛一 有 ☑　無 ☐　救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	外傷病院前救護についての概要、観察、処置について学ぶ。				
到達目標	外傷病院前救護の概念、知識、救急活動、外傷病態について説明ができる。　災害時の現場活動を説明ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第10版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	講義形式とする。前半と後半で学習到達度確認のため、まとめを行う。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	外傷（損傷）の定義	外傷の疫学
2	外傷（損傷）の分類	鈍的外傷・鋭的外傷・創傷の分類
3	受傷機転からみた外傷の特徴	傷病者の状況と受傷機転の評価
4	外傷による障害の起こり方	気道閉塞・呼吸障害・循環障害・中枢神経障害
5	外傷による死因	外傷死による3つのピークと死因
6	現場トリアージ	重症度・緊急度の判断・現場トリアージ
7	前半のまとめ	理解度確認
8	頭部外傷・顔面・頸椎（頸髄）損傷	外傷の種類・病態・観察のポイント・処置
9	胸部外傷・腹部外傷	外傷の種類・病態・観察のポイント・処置
10	骨盤骨折・四肢外傷	外傷の種類・病態・観察のポイント・処置
11	特殊病態	小児外傷・高齢者外傷・妊婦外傷
12	災害時トリアージ（1）	トリアージ区分・トリアージ方法（トリアージ）
13	災害時トリアージ（2）	トリアージ区分・トリアージ方法（トリアージ）
14	医療機関との連携	ドクターカー・ドクターヘリ・DMAT
15	後半のまとめ	理解度確認

2023年度　　吉田学園医療歯科専門学校　　救急救命学科

授業科目 （科目ID）	基礎演習 22e120	担当教員 （実務経験）	荒谷　和興 有 ☑　無 ☐　救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う　別紙1参照		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	実技	授業回数（1回90分）	46	時間数	90時間
授業目的	救急救命士として必要な規律や集団行動を体験し習得する。各種搬送法・創傷処置等の基本的な処置を習得する。				
到達目標	基本的ロープ結索や救急処置（止血・被覆・固定・体位管理・保温・搬送）を適切に実施できる。 山岳研修やライフセービングといった現場活動実習を通じてチームとしての協調ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第10版　救急救命士標準テキスト ・救急資器材管理マニュアル ・救急技術マニュアル ・その他				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験・項目ごとに行う効果測定等を基に総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	各種実習での体験を通じて各種基本を習得する。各個の動作一隊として一団体行動と、規律ある行動をすること。清潔感（服装・頭髪等）、規律ある行動に十分配意すること。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション（1）	はじめに（基礎演習全般の説明・頭髪、爪、服装について）
2	オリエンテーション（2）	号令要領、番号のかけ方（人員確認）、整列の仕方（基本の姿勢、整列休めの姿勢）
3	訓練礼式（1）	小隊編成（横隊の集合要領、横隊の整頓、横隊の右（左）向き、解散）
4	訓練礼式（2）	敬礼動作（挙手注目の敬礼、最敬礼、15度の敬礼、かしら中（右、左））
5	訓練礼式（3）	右（左）向け、半ば右(左）向け、後ろ向き（まわれ右）
6	訓練礼式（4）	かけ足行進・停止、職員室入退室要領
7	訓練礼式（5）	通常点検要領
8	訓練礼式（6）	通常点検要領
9	ロープ結索（1）	基本結索（本結び、巻き結び、ひとえ結び、もやい結び、二重もやい結び）
10	ロープ結索（2）	基本結索（本結び、巻き結び、ひとえ結び、もやい結び、二重もやい結び）
11	ロープ結索（3）	器具結索（ボンベ、かけや、他）
12	ロープ結索（4）	器具結索（ボンベ、かけや、他）
13	確認試験	訓練礼式・ロープ結索
14	確認試験	訓練礼式・ロープ結索
15	創傷の処置（1）	三角巾を使用した固定・被覆・止血処置

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	創傷の処置（2）	骨折の処置（副木固定）、バキュームスプリントによる固定
	17	各種搬送法（1）	メインストレッチャー、サブストレッチャー
	18	各種搬送法（2）	スクープストレッチャー、布担架
	19	傷病者の管理（1）	体位の管理（仰臥位、坐位、腹臥位、側臥位、ショック体位）
	20	傷病者の管理（2）	頸椎カラー固定、全身固定
	21	各種搬送法（1）	徒手搬送（支持搬送・抱き上げ搬送）
	22	各種搬送法（2）	応急担架（毛布・衣服・棒）、傾斜のある場所での搬送
	23	確認試験	各種創傷の処置、搬送法、体位管理の確認
	24	確認試験	各種創傷の処置、搬送法、体位管理の確認
	25	救急隊現場活動（1）	傷病者接触までの確認事項（情報共有、環境観察、傷病者の確認）
	26	救急隊現場活動（2）	問診と聴取（OPQRST、SAMPLERを使用した問診）
	27	救急隊現場活動（3）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	28	救急隊現場活動（4）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	29	救急隊現場活動（5）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	30	救急隊現場活動（6）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	31	山岳研修（1）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	32	山岳研修（2）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	33	山岳研修（3）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	34	山岳研修（4）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	35	救急隊現場活動（7）	気道確保（口腔内清拭、吸引、異物除去）、用手気道確保
	36	救急隊現場活動（8）	エアウエイ、酸素投与、器具による人工呼吸、補助呼吸
	37	救急隊現場活動（9）	胸骨圧迫（成人、小児、乳児、新生児）
	38	救急隊現場活動（10）	胸骨圧迫（成人）
	39	救急隊現場活動（11）	BVMによる人工呼吸
	40	救急隊現場活動（12）	BVMによる人工呼吸
	41	救急隊現場活動（13）	胸骨圧迫と人工呼吸
	42	救急隊現場活動（14）	胸骨圧迫と人工呼吸
	43	確認試験	胸骨圧迫と人工呼吸
	44	確認試験	胸骨圧迫と人工呼吸
	45	ライフセービング（1）	海での救助
	46	ライフセービング（2）	海での救助

2023年度　　吉田学園医療歯科専門学校　　救急救命学科　　別紙1

授業科目 （科目ID）	基礎演習 22e120	担当教員 （実務経験）	菩提寺　浩 有 ☑ 無 ☐	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・前期	担当教員 （実務経験）	阿部　鯛一 有 ☑ 無 ☐	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
授業形態	実技	担当教員 （実務経験）	非常勤講師 有 ☑ 無 ☐	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐	

2023年度　　吉田学園医療歯科専門学校　　救急救命学科

授業科目 （科目ID）	応急処置Ⅰ 22e121	担当教員 （実務経験）	荒谷　和興 有 ☑　無 □　救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う　別紙1参照		
対象年次・学期	通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	実技	授業回数（1回90分）	68	時間数	135時間
授業目的	傷病者を医師に引き継ぐまでの間に、傷病者の症状や病態に最も適切な対応を行うため、基礎技術の習得・各種資器材の特性を理解し状況に合った応急処置技術の習得を行う。				
到達目標	資器材の特性を理解し、正しい使用方法で適切な処置ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第10版　救急救命士標準テキスト ・救急資器材管理マニュアル ・救急技術マニュアル				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験・効果測定等を基に総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	使用資器材についての機能、取扱、禁忌事項などの説明後、実技を行っていく。実習開始前に各テキストの該当ページで予習をすること。授業中、不明な点や疑問点は積極的に質問し理解を深めること。止むを得ず欠席した場合のフォローについては自分から担当教員等に働きかけること。少人数制の実習形態に関しては一定のルールを設けているので、各自実習に関する掲示物には必ず目を通すこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	リバーレスキュー①	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	2	リバーレスキュー②	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	3	リバーレスキュー③	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	4	リバーレスキュー④	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	5	リバーレスキュー⑤	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	6	リバーレスキュー⑥	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	7	リバーレスキュー⑦	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	8	リバーレスキュー⑧	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	9	オリエンテーション	実習開始についてのオリエンテーション
	10	救急現場活動の基本	救急要請から医療機関収容までの救急活動の流れ
	11	救急救命士が行う処置①	除細動（半自動、全自動、自動式心マッサージ器）使用方法
	12	救急救命士が行う処置②	除細動（半自動、全自動、自動式心マッサージ器）使用方法
	13	救急救命士が行う処置③	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	14	救急救命士が行う処置④	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	15	救急救命士が行う処置⑤	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	救急救命士が行う処置⑥	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	17	救急救命士が行う処置⑦	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	18	救急救命士が行う処置⑧	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	19	確認試験	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	20	確認試験	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	21	救急救命士が行う処置⑨	異物除去方法（指拭法、背部巧打法、胸腹部突き上げ法等）
	22	救急救命士が行う処置⑩	異物除去方法（喉頭展開、マギール鉗子、喉頭鏡を使用した異物除去）
	23	救急救命士が行う処置⑪	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	24	救急救命士が行う処置⑫	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	25	救急救命士が行う処置⑬	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	26	救急救命士が行う処置⑭	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	27	救急救命士が行う処置⑮	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	28	救急救命士が行う処置⑯	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	29	確認試験	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	30	確認試験	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	31	救急救命士が行う処置⑰	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	32	救急救命士が行う処置⑱	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	33	救急救命士が行う処置⑲	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	34	救急救命士が行う処置⑳	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	35	救急救命士が行う処置㉑	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	36	救急救命士が行う処置㉒	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	37	救急救命士が行う処置㉓	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	38	救急救命士が行う処置㉔	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	39	救急救命士が行う処置㉕	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	40	救急救命士が行う処置㉖	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	41	救急救命士が行う処置㉗	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	42	救急救命士が行う処置㉘	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	43	確認試験	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	44	確認試験	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	45	救急救命士が行う処置㉙	気管挿管（個人訓練）

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	46	救急救命士が行う処置㉚	気管挿管（個人訓練）
	47	救急救命士が行う処置㉛	気管挿管（個人訓練）
	48	救急救命士が行う処置㉜	気管挿管（個人訓練）
	49	救急救命士が行う処置㉝	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	50	救急救命士が行う処置㉞	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	51	救急救命士が行う処置㉟	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	52	救急救命士が行う処置㊱	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	53	救急救命士が行う処置㊲	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	54	救急救命士が行う処置㊳	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	55	救急救命士が行う処置㊲	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	56	救急救命士が行う処置㊳	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	57	確認試験	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	58	確認試験	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	59	総合シミュレーション①	想定訓練
	60	総合シミュレーション②	想定訓練
	61	総合シミュレーション③	想定訓練
	62	総合シミュレーション④	想定訓練
	63	総合シミュレーション⑤	想定訓練
	64	総合シミュレーション⑥	想定訓練
	65	消防署見学①	消防業務の理解と体験
	66	消防署見学②	消防業務の理解と体験
	67	消火栓除雪①	消防業務の一つである消火栓除雪を実施
	68	消火栓除雪②	消防業務の一つである消火栓除雪を実施

2023年度　　吉田学園医療歯科専門学校　　救急救命学科　　別紙1

授業科目 （科目ID）	応急処置Ⅰ 22e121	担当教員 （実務経験）	菩提寺　浩 有 ☑　無 ☐	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	通年	担当教員 （実務経験）	阿部　鯛一 有 ☑　無 ☐	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
授業形態	実技			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐　無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐　無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐　無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐　無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐　無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐　無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐　無 ☐	
		担当教員 （実務経験）	有 ☐　無 ☐	